

14. 釧路市における「ライフケアビレッジ」のパイロットプランの策定

資料 3-1-1. 第 1 回パイロットプラン策定委員会 議事次第

資料 3-1-2. 同 議事要旨

資料 3-2-1. 第 2 回パイロットプラン策定委員会 議事次第

資料 3-2-2. 同 議事要旨

資料 3-3-1. 第 3 回パイロットプラン策定委員会 議事次第

資料 3-3-2. 同 議事要旨

資料 3-4-1. 街なか暮らしワークショップ第 1 回 次第

資料 3-4-2. 同 配付資料リスト

資料 3-4-3. 同 各グループのまとめ

資料 3-5-1. 街なか暮らしワークショップ第 2 回 次第

資料 3-5-2. 同 配付資料リスト

資料 3-5-3. 同 各グループのまとめ

資料 3-6-1. 街なか暮らしワークショップ第 3 回 次第

資料 3-6-2. 同 配付資料リスト

資料 3-6-3. 同 全体ワークショップのまとめ

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査
市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

第 1 回

「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会

議事次第

日時 : 平成 21 年 12 月 10 日 (木) 15:00~17:00
会場 : 釧路プリンスホテル 3 階 北斗の間

1. 開会挨拶

2. 委員紹介

3. 議 事

- (1) 調査の概要とスケジュールの確認 (資料 1)
- (2) 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会の進め方について (資料 2)
- (3) 「ライフケアビレッジ」のモデル地区と展開イメージについて (資料 3)
- (4) 市民アンケート調査結果の報告と分析について (資料 4)
- (5) 「街なか暮らしワークショップ」の進め方について (資料 5)
- (6) その他

4. 閉会挨拶

■配布資料

- 第 1 回「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議事次第
- 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 名簿
- 資料 1-1. 調査の概要「市民協働による安心な街なか季節居住を実現する『ライフケアビレッジ』の展開方策調査について」
- 資料 1-2. 調査フローとスケジュール
- 資料 2. 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会の進め方
- 資料 3-1. 「ライフケアビレッジ」のモデル地区
- 資料 3-2. 釧路市中心市街地グランドデザイン
- 資料 3-3. 「ライフケアビレッジ」の展開イメージ
- 資料 4-1. 市民アンケート調査結果の報告と分析 (単純集計)
- 資料 4-2. 市民アンケート調査結果の報告と分析 (クロス集計)
- 資料 5-1. 「街なか暮らしワークショップ」の進め方
- 資料 5-2. 第 1 回「街なか暮らしワークショップ」の進め方

第 1 回「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議事要旨

○開催日時

・平成 21 年 12 月 10 日（木）15：00～17：00

○開催場所

・釧路プリンスホテル 3 階 北斗の間

○出席委員（敬称略、順不同）

辻 昌 一委員（委員長に選任）、金子 ゆかり委員、岩淵 雅子委員、小 原 一委員
木村 豊年 委員

○次第

1. 開会挨拶
2. 委員紹介
3. 議 事
 - （1）調査の概要とスケジュールの確認（資料 1）
 - （2）「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会の進め方について（資料 2）
 - （3）「ライフケアビレッジ」のモデル地区と展開イメージについて（資料 3）
 - （4）市民アンケート調査結果の報告と分析について（資料 4）
 - （5）「街なか暮らしワークショップ」の進め方について（資料 5）
 - （6）その他
4. 閉会挨拶

議事要旨

- （1）調査の概要とスケジュールの確認
- （2）「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会の進め方について
→事務局より資料 1、2 について説明
- （3）「ライフケアビレッジ」のモデル地区と展開イメージについて
→事務局より資料 3 について説明

①ライフケアビレッジの考え方についての主な意見

・日常の衣食住が満たされ、遊びやコミュニティが提供されるようなまちづくりにより、郊外居住高齢者をはじめとした高齢者を中心とした方々が街なかで安心・安全に一時居住できることかと現状イメージしている。

- ・旭小学校の跡地をどう開発・活用していくかが重要。

(木村)

- ・郊外居住高齢者を中心に高齢者だけを集める場所と考えると、地域は後期高齢者ばかりに。
多世代が混住する形でなければ先が見えてこない。

- ・一つの高齢者団地をつくるのではなく、特別養護老人ホームや一般公営住宅、保育園やデイサービス、コミュニティレストランなどがあり、地域のオフィス街の働き盛り世代もご飯を食べに来る。子どもも高齢者も、多世代が一緒に利用し交流できるような複合的な形。
- ・若い人達が郊外ばかりに住むようになっては、街なかは忘れられた場所になってしまう。

(岩淵)

- ・モデル地区には、医療施設や日常の買い物の楽しみの充実、避暑目的の二地域居住希望者に向けた釧路らしい景観づくりが必要。

- ・高齢者も他の世代も街なかに来て住もうという気持ちになるかどうか。暮らしを楽しむ仕組みが必要。例えば釧路川リバーサイドを歩くことで豊かな気持ちになれる等
- ・街なか暮らしを楽しむ地域としてアピールすることで、少しずつ変わって来るのかと思う。行政がというより、皆でつくり上げていくということだと思う。

(金子)

- ・全国的に保育園が非常に不足している。若い世代がほとんど共働きという時代である。
- ・若い女性が働ける施設・子どもの託児・車がなくても住める経済的に負担の軽い居住場所の提供をモデル地区で考える。子どもと高齢者が一緒に遊べる場所が自然にできてくる。

(小原)

- ・若者や子ども達と高齢者には接点がないというのは先入観念。工夫や場面をつくれれば、十分なコミュニケーションが取れ、それぞれの社会性を高める要因となる。
- ・高齢者の介護や医療的な処置が必要な段階になったときに考えるのではなく、例えば50代、若い年代からコミュニティ形成のトレーニングをすることが安心な老後を迎えられる重要な要素になる。

(辻委員長)

②ライフケアビレッジ展開イメージへのニーズ

- ・街なかでの活動や施設へのニーズはあると考える。
- ・釧路を離れ遠方で暮らす子ども世帯から寄せられる、釧路および釧路根室管内居住単身高齢者への生活支援サービスの提供や釧路根室圏居住高齢者を中心とした通院支援。
- ・釧路の街なかで提供でき、遠方や郊外等別世帯に住まう家族も安心できる施設や支援サービスはニーズとしてあると日々対応しているなかで思う。冬季居住の場としての展開の可能性も考えられるのでは。
- ・生活支援サービスをソーシャルビジネスとして展開することも考えられる。
- ・体力や身体機能が少し衰えはじめ一人暮らしは多少心配だが、見守りや少しのサポートがあれば日常生活を送れる人の住む施設が少ない。
- ・施設となると認知症の方向けグループホームや数百人が入居待機中の特別養護老人ホームなどになってしまう。

- ・サポートを受けながら自立して暮らせる住まいがあれば、郊外居住高齢者の街なか居住も提案でき、高齢者も家族もみんな安心する場となるのでは。
- ・現在、民間のビジネスとして高齢者下宿ができはじめているが、費用的な課題がある。釧路の場合7～8万くらいで食住をまかない、保険料や病院代、交際費をあわせて12～13万が大半だと思う。
- ・あなたはサポートが必要なので街なかに来てくださいでは高齢者は受け入れられない。若い世代と混住でき、見守りやケア・生活支援サービスを受けられる住まいで過ごすことで、より豊かで安心できる暮らしができる。地域で高齢者の方の力を貸してほしい、経験を地域で活かしほしい。という提案型の企画で進めることが必要。

(岩淵)

- ・モデル地区では朝、高齢者が介護・一般のタクシーもしくは親族による送迎を受けている様子をよく見かける。バスの利便性が良いようで、使いづらいためではと思う。
- ・タクシーも高齢者や社会的弱者にとって、快適ではないのかも。高齢者や社会的弱者に対応した安全な移動手段の提供はビジネスの活路ともなるかもしれない。

(辻委員長)

③検討における課題

- ・経済的に厳しい状況下、釧路市民の二地域居住（季節住居や短期住居）は、負担が大きいのでは。 (小原)
- ・食べる、住む、医療、商圈を兼ね備えなければ安心して暮らせない。小さな商圈・エリアである釧路でできるかを懸念する。 (木村)

④現在の活動状況と中心市街地について

- ・たんぼぼの会は住宅街にある旧福島医院の無償貸与を受け、活動拠点としている。
- ・現拠点はバスの乗り換えが必要。会員から、バス路線が集中する北大通・街なかに拠点があると助かると言われることが多く、北大通の空き店舗を中心に活動拠点を探したが、賃料が高く実現しなかった。
- ・現在、北大通の「市民活動センターわっと」を時間借りし、介護相談事業等を実施。

(岩淵)

(4)「市民アンケートの調査結果の報告と分析について

→事務局より資料4について説明を実施

○市民アンケートの調査結果についての意見・感想

- ・住居を変えてまで街なかに住みたいというようなことは、あまり希望していない。
- ・現状、中心市街地に関心をもっていない市民が多い。

(小原)

- ・追加費用として支払える金額想定が1～2万円と低い。
- ・中心市街地に対するニーズ。「冬季に雪が多く凍結している時期は中心市街地に住んでもいい

い」が最も多い。他の魅力・ニーズが少ないことを寂しく感じる。

- ・高齢者は「街なか暮らし」への思いがあるように感じる。若い世代は中心市街地に「街なか」という認識がないようだ。意識のギャップがある。

(金子)

- ・日常聞く言葉がそのまま出ているアンケート結果。街なかに愛着はあるが、生活しづらい。大型店に行く足のない人達には近くで買い物できる場所がない、大きな医療機関が少なくなり病院に行きにくい。
- ・旭小学校の跡地の活用。ショッピングセンター、少し弱ってきた方向けの高齢者住宅、保育園、元気な人や若い人達の住まいとして多世代が暮らせるような場に。地域で買い物ができ、出勤するときにはその場で子どもを預け、子どもたちとお年寄り交流ができ、見守りが受けられる。人もお店も戻ってくるのでは。
- ・北大通のまちづくりには規制が必要だったと考える。金融機関等が多い。まちの魅力づくりのために、路面一階は買い物がしたくなるような店舗を置く、銀行等は二階以上に設置する。

- ・街なか復活には暮らしの魅力づくりが重要

(岩淵)

- ・中心市街地に居住したい23%、市街地周辺に居住したい26%。安心して買い物ができる、医療機関に通える、街なかで過ごしたい・遊びたい・住みたいと思える住環境づくりが必要、この要素が加われば中心市街地居住希望者はもっと増える。大変参考になった。
- ・課題は追加費用。2DKを希望しながら追加費用は1～2万円。
 - ・不動産業者としても「若い世代との暮らし」この方向を重視すべきではと考えてきたが本当に大きなポイントだということが示唆されていると感じた。
- ・事業展開には旭小学校の運用活用が重要である。

(木村)

- ・除雪対策の問題が課題のトップに出てきているが、釧路は雪の少ない地域。今後、釧路で雪がもっと降るようになったら人口減少が激しくなるのではないかと心配。

(辻委員長)

(5) 「街なか暮らしワークショップ」の進め方について

→事務局より資料5を説明

(6) その他

→事務局よりモデル地区選定理由について説明

以上

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査
 市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

第 2 回 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議 事 次 第

日時 : 平成 22 年 1 月 29 日 (金) 13:30~15:30
 会場 : 釧路プリンスホテル 3階 北斗の間

1. 開会挨拶

2. 議 事

- | | |
|------------------------------------|--------|
| (1) 第 1 回策定委員会のまとめ | (資料 1) |
| (2) 市民アンケート調査および各種調査の結果報告 | (資料 2) |
| (3) 第 1 回・第 2 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ | (資料 3) |
| (4) モデル地区の分析 | (資料 4) |
| (5) 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの素案 | (資料 5) |
| (6) その他 | |

3. 閉会挨拶

■ 配布資料

- 第 2 回策定委員会 議事次第 / 策定委員会 名簿
- 資料 1-1. 第 1 回策定委員会意見のまとめ
- 資料 1-2. 第 1 回策定委員会議事要旨
- 資料 2-1. 市民アンケート調査および各種調査の概要
- 資料 2-2. 市民アンケート結果に見るライフケアビレッジ居住者像のイメージ
- 資料 2-3. 釧路市郊外居住高齢者 面談調査 概要報告
- 資料 2-4. 釧路市短期下宿受入施設 面談調査 概要報告
- 資料 2-5. 釧路市におけるソーシャルビジネスのシーズと課題調査 概要報告
- 資料 2-6-1. 「地域の縁側」社会実験事業 概要報告①～実施概要
- 資料 2-6-2. 「地域の縁側」社会実験事業 概要報告②～来場者アンケート調査結果
- 資料 3-1. 第 1・2 回街なか暮らしワークショップの開催概要
- 資料 3-2. 第 1 回街なか暮らしワークショップのまとめ
- 資料 3-3. 第 2 回街なか暮らしワークショップのまとめ
- 資料 4-1. モデル地区の人口・世帯の現況と特性
- 資料 4-2. モデル地区の土地・建物の現況と特性
- 資料 4-3. モデル地区「旭町地区」の暮らしの資源マップ
- 資料 4-4. モデル地区の空き家・空き店舗等の現状
- 資料 5-1. 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの構成案
- 資料 5-2. 「ライフケアビレッジ」の展開プログラムの全体像
- 資料 5-3-1～4. 「ライフケアビレッジ」の展開プログラム<モデル 1～4>
- 資料 5-4. 「地域マネジメント」の仕組みづくり

第 2 回「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議事要旨

○開催日時

・平成 22 年 1 月 29 日（金）13:30－15:30

○開催場所

・釧路プリンスホテル 3 階 北斗の間

○出席委員（敬称略、順不同）

辻 昌一 委員長、金子 ゆかり 委員、岩渕 雅子 委員、小原 一 委員、木村 豊年 委員

○次第

1. 開会挨拶

2. 議 事

（1）第 1 回策定委員会のまとめ （資料 1）

（2）市民アンケート調査および各種調査の結果報告 （資料 2）

（3）第 1 回・第 2 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ （資料 3）

（4）モデル地区の分析 （資料 4）

（5）「ライフケアビレッジ」パイロットプランの素案 （資料 5）

（6）その他

3. 閉会挨拶

議事要旨

（1）第 1 回策定委員会のまとめ

→資料 1 にもとづき事務局より説明

（2）市民アンケート調査および各種調査の結果報告

→資料 2 にもとづき事務局より説明

- ・資料 2-3 郊外居住高齢者面談調査。日常、町内会でよく話されている内容と共通。
- ・資料 2-4 短期下宿受け入れ先面談調査。短期滞在から長期滞在への移行が課題か。
- ・資料 2-5 ソーシャルビジネス調査。釧路市の貴重な地域資源「自然」の魅力をプランに含めるべき。全国発信に効果的では。釧路・根室管内ではパイが小さい。お金が落ちない。人々とのつながり等は滞在しなければわからない。
- ・北海道は住みやすい、費用がかからない、自然が豊か。プランには夢や可能性が必要。（小原）
- ・長期滞在ビジネス研究会や不動産業界でも、いかに中心市街地に人を呼ぶかを検討している。本調査ヒアリング結果等で「5 万円が上限、2DK を希望」とあるが、中心市街地に安価で暮

らせる住まいの提供は我々の使命かと考える。人が住めば商店や医療施設はできてくる。

- ・ 法的な部分等に行政の後押しが必要。例えば固定資産税が高いため、ビル所有者も現状のままでは持ちこたえられない。物件を所有できていれば、開放方策等も検討できる。また、ホテルを利活用し介護施設や老人下宿をつくるには様々な障害もあるしコスト高。

(木村)

- ・ 短期下宿受け入れ施設。釧路根室管内には出産可能な産婦人科が少ない。出産6ヶ月前には定期受診の開始が必要なため、頻繁に釧路市入りが必要。出産4ヶ月ほど前から市内アパート等に短期滞在し出産するという事例は多い。
- ・ この事象に課題はあるが、現状釧路市に受け入れ機能があることは良いことかもしれない。
- ・ 短期居住の潜在的なニーズはあるだろう。
- ・ 固定資産税の評価額。実勢価格が評価額の4分の1ほどになり、移転登記費用のほうが高いという事例も。不動産物件の流通は窮屈な状況。

(辻委員長)

(3) 第1回・第2回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ

→資料3にもとづき事務局より説明

- ・ 「地域の縁側づくり」実験事業実施に協力した。事務局スタッフが常駐し、普段接することのない人と交流がもてた。また、M002階に「常連」がいることに気が付いた。街なかに集まる場所がなくなっている。以前は百貨店等が機能していたのかもしれない。
- ・ 実験終了後も継続してほしいという声を聞く。縁側づくりへの期待は大きいかもしれない。
- ・ 現状、街なかで自然発生的に人が集まる場所をつくる事は難しいかも。皆で知恵を出し合いつくっていく必要がある。個々の活動は盛んなので活動をつないでいくことで自然に「地域の縁側」ができてくると良い。
- ・ 一団地で建物占有は負担が大きい。数団体の協力、共同利用により費用課題は解決できるのでは。
- ・ 「釧路ならでは」の景観や資源を活用し、もっとアピールする必要がある。例えば「働く港」、「寒さ」。他地域の人にとっては魅力。
- ・ 「釧路ならでは」を体験できる宿泊・滞在施設づくり。寒いところに長期間暮らす。他地域の人はこれまでにない体験に。
- ・ 行政主体ではなく民間主体。考え方を浸透させること、いろいろな団体に知識の共有が重要。

(金子)

- ・ 資料3ワークショップのまとめ。ほとんどのヒントが入っている。加えて、釧路川から湿原につながる自然をどう生かすかがポイント。
- ・ 首都圏から講師を招聘する際「釧路湿原で川くだり」「阿寒」「摩周湖」等の体験を提案。謝金はあまり高くないのだが喜んで来てもらえ、リピーターにもつながっている。
- ・ 釧路市は釧路・根室・網走の高度医療重点地区といえる。検査だけでなく健康管理＋自然を巡るビジネスの展開が検討できるのでは。
- ・ 高知のひろめ市場では、地元の高校生が勉強している隣で観光客が特産品を食べている。M00

もそのような場所に。例えば1年間開放実験をしてみてもは。2階にたまり場があることで1階での買い物にもつながるのでは。

- ・ **人のつながり。**1足す1は2ではない。**化学反応が起きる。**
- ・ 現在の活動場所は**他団体とシェア**で旧・病院を借りている。地域食堂を開き、引きこもりの老人を呼び出す等、新しい取組みを進めている。
- ・ 大規模店舗を呼び寄せるなど商業振興施策等を語ってきた**この20年の議論から飛び跳ねるような検討や取組みが必要**では。

(岩淵)

- ・ プラン素案は、釧路の現状に即した良いまとめだが、全国発信するならば釧路の自然を盛り込むほうが良い。
- ・ 去年は全国から1,600人ほどが釧路に滞在。長期滞在利用者の懇談会等によると**大自然があり、清涼な気候の釧路に憧れて来る人はまだまだいる。PR不足。**全国にもっとPRできると良い。
- ・ リタイアして、第2の人生を楽しもうという人は多い。大阪に7年居住した。**団塊世代以上の都心居住者には最終的な夢として「自分の土地を持つ」**ことがあるように感じる。**大自然のなか、安い土地があり、癒しの場や多様な人が集まって家族的な付き合いができる場がある。**すごく良いと思う。
- ・ 移住者としての実感だが、**釧路には他地域から来た人を受け入れる寛容さ**があると思う。**全国にPRできる「夢」のようなもの**を盛り込んでいけるとさらに良くなると思う。

(木村)

- ・ 「暮らしを支える」＝「生きがい」。それにはまず**「健康であること」がベース。健康を核にしたプログラム**が必要。
- ・ **固定資産税特区のような取組み**ができないか。**遊休地で畑**がつかれるといい。
- ・ **中央埠頭の活用。**今は活気がないが、大切な地域資源。**健康づくりにつながる散策プログラム**などに活用できないか。

(小原)

- ・ 昨年10月、国交省による「くしろ圏生活習慣病改善モニターツアー」を開催。行程はMOO検診センターで人間ドッグ入り。体に良い食事を取り、川下り、阿寒湖畔アイヌ火祭りに参加。対象者は大手企業の健保組合の50代～まもなく定年という方が大半。アンケート結果は大変好評。
- ・ **釧路の特徴は、美味しく、かつ健康に資する食材が多いこと。**気温の低さ＝植物に栄養が溜め込まれるらしい。食の加工技術もある。**アイヌ民族の調理法**に由来したり、調理法を研究している人材もいる。**体によい食事やその研究もプランに加えては。**

(辻委員長)

(4) モデル地区の分析

→資料 4 にもとづき事務局より説明

- ・資料 4-3 右「軒先青果店」は大人気。消防団第 7 師団は第 5 師団と合併。3 月末で廃止。
- ・旧旭小学校は敷地約 6,000 坪。校舎は耐震に問題があるようだが、土地をどう活用するかが重要。地区住民としては、公共施設+畑として活用できないものかと考えている。

(小原)

(5) 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの素案

→資料 5 にもとづき事務局より説明

- ・モデル地区内の中心的コミュニティ=町内会として、新たなコミュニティ受け入れをどう考えるか？ (辻委員長)
- ・町内会のあり方は変化しなければ。現状加入者は減っていく一方。加入率 50%以下に。マンション等共同住宅は町内会に加入しないケースが多く、戸建て住宅は高齢化が進む。
- ・モデルプラン。資料 5-3-3 (広域圏居住者の二地域居住) を核としてスタートしては。全プランを同時進行するのは大変では。

(小原)

- ・短期、中長期的にとプランをある程度分けて考えていく事で今後の方向性が見えてくる。そうしたコンセプトが整理されていれば良いと思う。
- ・今は根気よく熟成を待つ必要がある。10 年前、5 年前と比べ NPO 団体等若い世代が真剣に取り組んでいる。何をどこから手をつけても 今より良い方向に向かうと思う。

(木村)

- ・プラン、対象者を限定すると、誰かの負担が大きくなるだけだと思う。
- ・資料 5-4 「地域マネジメントの仕組み」のようなものをつくり 4 プランを組み合わせる全体でまわしていかなければ。ただし一度にはできないので 年次的に取り組む。
- ・10~20 年後の釧路市の将来像を考えると「多様な人が街に住み直す」という考え方が必要。それがなくては展開していかない。支援の必要な人だけではない、多様な人たちが住む。暮らしの福祉コミュニティをつくっていくという取り組みが必要。
- ・それには 時間をかけた取り組みが必要。「地域の縁側」実験を 1 年間位続ける等

(岩渕)

- ・モデル地区ゾーンの特性、資源を活かす。居住に関する資源はある程度大丈夫だが現状のままで良いとはいえない。
- ・不動産資産の活用が重要。モデル地区内に 使っていないビジネスホテルなどが何棟かある。そうした資源をうまく活用。
- ・権利関係が課題になるかもしれない。地権者が個人でない、市外在住者が広範囲を所有するなどの実態。地権者に理解を得る必要がある。
- ・北大通は賃料が高いが、少し離れると安くなる。今の資源を活用することで人の集まる仕組みをつくる。

- ・モデルプランについて、どれかひとつを選ぶのは難しい。釧路市により多くの人に来てもらい、お金を落としてもらい、釧路をよく知ってもらおう。**夏季と冬季で住居・居室をシェアする等の取り組みは可能かも。**
- ・**1~4のモデルを組み合わせる**こともできるかもしれない。高齢者は「必要とされている」意識が大切。母子家庭で子育てに悩みのある方を支えたり、**いろいろな方が集まって住むということ自体が必要**では。
- ・**地域居住再生ファンド**。不況の時代にうまく機能するか懸念するも、こうしたものがあると良いと思う。
- ・**ニーズ、担い手、マネジメント機能**が重要。良いプランでもこれらなしには機能しない。
(金子)
- ・自分の親が離れて暮らしているならば、**災害時の安否確認**が非常に気になる。例えば**耐震基準が厳しい等、防災における安心安全対策を盛り込めないか。**
- ・**成年後見人制度**など。**高齢化が進むにつれ、法律関係で複雑な問題が発生する**可能性がある。例えば介護サービスが容易に受けやすい等の仕組みの検討。近年、明らかに**通常の契約取引ができない状況**にある事例が見られている。

(辻委員長)

- ・地域居住再生ファンドのイメージ。地域の共同出資で、3億円規模のファンドをつくる。例えば空き家を改修して高齢者下宿にする際、改修費に5千万円が必要というとき。その資金を事業者に貸し出し。住まい事業だけではなかなか投資・回収可能なビジネスモデルを組みにくい。**さまざまな公的制度も活用しながら、事業が行ないやすくできるような仕組み。**
- ・岩見沢市の住宅再生はこのスキームで実施。稚内市も類似するスキーム。
- ・正確には第3セクター。ここでは自前で資金を持つイメージ。
- ・不動産業との連携がないとできない。投資の部分だけを受け持つ仕組み。
(事務局：山重)
- ・不動産業の取組みに行政も巻き込んでいくようなイメージ。**地方都市でも可能ならば非常に興味がある。**民間の不動産業とうまく住み分けができれば良いと思う。
- ・**首都圏では転勤者のリロケーションビジネスを専門に行なう業者も**出てきている。

(木村)

- ・金融手法についてはさまざまなものが開発されている。理論上、地方都市でも可能なものはある。**民事信託、立体交換、リバースモーゲージ、PFIなど。複雑な権利関係の整理には信託の活用**など。
- ・例えば、**この仕組みの中に金融手法を入れる**ことで画期的なものができるかもしれない。
- ・高齢社会では、**自分で判断ができなくなったときに、財産をどう守るか、活用するか**ということが大切。その時に**不動産は重要なポイント**。
- ・釧路のような地方都市の取組みとして試せることがあるかもしれない。

(辻委員長)

(6) その他

→日程確認等

以上

平成 21 年度広域ブロック自立施策等推進調査
市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

第 3 回 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議 事 次 第

日時 : 平成 22 年 2 月 23 日 (火) 13:30~15:30
会場 : 釧路プリンスホテル 3階 北斗の間

1. 開会挨拶

2. 議 事

- (1) 第 2 回策定委員会のまとめ (資料 1)
- (2) 第 3 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ (資料 2)
- (3) 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの取りまとめ (資料 3)
- (4) その他

3. 閉会挨拶

■配布資料

- 第 3 回策定委員会 議事次第
- 資料 1. 第 2 回策定委員会議事要旨
- 資料 2. 「街なか暮らしワークショップ」のまとめ
- 資料 3. 「ライフケアビレッジ」パイロットプラン (未定稿)

第 3 回「ライフケアビレッジ」パイロットプラン策定委員会 議事要旨

○開催日時

・平成 22 年 2 月 23 日（火）13:30－15:30

○開催場所

・釧路プリンスホテル 3 階「北斗の間」

○出席委員（敬称略、順不同）

辻 昌一 委員長、金子 ゆかり 委員、岩渕 雅子 委員、小原 一 委員
木村 豊年 委員、田中 淳一 委員

○次第

1. 開会挨拶

2. 議 事

(1) 第 2 回策定委員会のまとめ

(資料 1)

(2) 第 3 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ

(資料 2)

(3) 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの取りまとめ

(資料 3)

(4) その他

(資料 4)

3. 閉会挨拶

議事要旨

(1) 第 2 回策定委員会のまとめ

→資料 1 にもとづき事務局より説明

(2) 第 3 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ

→資料 2 にもとづき事務局より説明

(3) 「ライフケアビレッジ」パイロットプランの取りまとめ

→資料 3 にもとづき事務局より説明

<基本的な考え方について>

- ・モデル地区ゾーンで「ライフケアビレッジ」の展開プログラムが実現できるか疑問。**安心安全な環境として適切か、他都市から二地域・季節居住を考えるとときに魅力的なまちか。**
- ・コミュニティ自体が成熟した状況にあると思うが、「ライフケアビレッジ」は**いつ頃実現予定か。**

(金子)

- ・プラン内では具体的な時間軸は設定していないが、国では今後 15 年くらいで 65 歳以上の高齢化率が 30%を越えると想定していることを踏まえて 10~15 年後くらいの間で考えている。

(事務局：岡本)

- ・展開イメージの中で若い世代は母子世帯のみで、他は大半が高齢者。高齢化率 30%となる 15 年後くらいを想定というが、この地区はすでに高齢化率 30%にいたっているので、このエリアで課題解決ができれば、全国のモデルとなるのでは。
- ・旭小学校の跡地活用の検討。下層階に高齢者の福祉施設と上層階に若者向けの住居の複合施設で魅力的な場所があれば人は集まる。

- ・モデル地区ゾーンでは、釧路川周辺や北大通等を俯瞰する考え方で。

- ・例えばお産であれば赤十字病院のそば、高度医療であれば市立釧路総合病院のそばにもそうした展開が考えられる。

(岩淵)

- ・基本的な考え方において、短期滞在者、通勤族・学生など比較的短い期間の滞在者、定住者の 3 パターンくらいで考えては。

- ・ワークショップで「若者の出る幕づくり」と意見があったが、プランにおいて若者の出る幕が少ない。ターゲットはむしろ元気な高齢者か。元気な高齢者に目的を与え、雇用が生まれることが相互扶助。元気な高齢者が自ら動くこと、若者がいること。この 2 点が少ない。

(田中)

- ・年代は、ある程度しぼらなければいけないのでは。高齢者と暮らす・過ごす若者とはどういう人たちか。世代的には 20 代か、30 代か。子育て世代だと郊外に住みたいのでは。どういう層の若者を想定して、街なかに呼び込んでいくか。

- ・大都市圏の方々を中心市街地に呼び込むためには、冬場が課題になる。

(木村)

- ・国土交通省と厚生労働省がバックアップして、モデル地区ゾーンが設定されているようだが、疲弊しつつある釧路の中心市街地を再生可能にするのが、この旭町地区のプラン。北大通や中央埠頭の展開の問題もあるが、10~15 年後など先送りしてはいけない。

- ・官民一体となって取り組む最後のチャンスかもしれない今の機会を逃してはいけない。釧路のまちおこしにつながり、良い環境ができれば人口も増えることにつながるのでは。我々の力で第一段階だけでも取り組んでいく事が必要ではないか。

(小原)

- ・元気な高齢者、若者の活躍の場がない、時間的に見た場合 15 年先では遅いのでは、というご意見。事務局より説明を

(辻委員長)

- ・(57p) ライフケアビレッジのプログラムの担い手として、元気な高齢者や若者等も考えられる。プランの前半は高齢者が住みやすいという内容が中心になっているが、それを支える仕組みとして元気な高齢者や若者が含まれてくる。3p ははご指摘を踏まえてわかりやすい文章に修正する。

(事務局：山重)

- ・(3p) 釧路市における展開イメージなので、「元気な高齢者」にイメージ・ポイントをしぼった表現の仕方があるのではないか。

(田中)

- ・不況下のため、教育大の学生は住居確保に困っているようだ。寮に入れるのは3分の1程度。
例えば、中心市街地で学生と高齢者が一緒に住んで助け合えるようなものがないだろうか。ニーズはある。

(岩淵)

< 2・3章 >

- ・モデル地区ゾーンの設定。全国に示すため、この地区を選んだかと思う。空き家・空き店舗が多いという現状の原因を示し、課題を洗い出す表現を入れておいてはどうか。

(田中)

- ・追加アンケート、季節居住に関連した話として、先日国内大手リゾート会社の方と意見交換を行なったが、冬季は中国人観光客の誘致が中心となっているようだ。雪があり、インフラが整って、距離的に一番近いのは北海道だそうだ。

(辻委員長)

< 4章 >

- ・「住まいるさっぽろ」の取り組みは参考になるのでは。居住先の受け皿。そのあたりがヒントになるのかという気もする。商売のベースではなく、互助の精神が必要。

(小原)

- ・釧路には多くのNPO団体等の取り組みがあることがわかった。心配ない・心強いという印象をもった。
- ・老人下宿もグループホームも申込みが殺到している。一方で下宿が破綻したというニュースも聞く。どう維持し育てるかが懸念される。一件でも1億円前後の建物等が必要。資金援助も必要になってくる。
- ・そうしたNPOの取組みへの支援体制として、行動を起こそうとする人たちを支援する仕組みは行政にあるのだろうか。

(木村)

- ・これまで行政でソーシャルビジネスに特化し支援してきたことはない。団体という形で受け止めてきた。今回、社会的課題についてビジネス手法を活用し解決するプランづくり。雇用や起業化にも結びつくことから、今回の調査でも市も着眼しはじめたところ。

(事務局：岡本)

- ・金融機関においても NPO 法人に対する経済取引の主体としての位置付けは高くなってきているし、事業内容についての重要性も意識している。金融環境としては良くなってきている。
- ・経済産業省で起業家を育成するプログラムがある。釧路市内のNPOやソーシャルビジネス起業を志す方に声をかけたところ、1日で11人も応募が集まった。あえて失敗をさせるトレーニングを積む。失敗の理由は経営管理が大半。ソーシャルビジネスの担い手という意では釧路市内には良い環境が潜在的にはある。安定的なサービス提供のためにはボランティア意識だけではなく、経営という視点が重要。

(辻委員長)

- ・相互扶助は重要だがボランティアでは限界が来る。ソーシャルビジネスという展開は今後増えてくるだろうと思う。いろいろな職種が出てくると考えられるので、それらの連携の場が必要。

- ・プラン案のなかに公共政策と出てくるが、ビジネスという観点でいえばバックに公共が入りすぎるのもいかなものかという思いもある。

(田中)

- ・私自身は高齢者の支援をボランティアな展開で進めてきたが、限界を感じNPOを起こしている。ソーシャルビジネスを進めるには介護保険事業等の公的制度活用も必要。質の高い専門的なサービス提供により、社会福祉法人と変わらない解決策ができる。
- ・一番の課題は、若者や母子家庭、失業者の雇用を確保しながら、地域課題を解決できるかということ。その解決策のひとつとしてビジネス手法を活用するということだと思う。
- ・20年ボランティアでやってきたが、ボランティアの担い手として中心だった主婦層が仕事をもつようになり地域にいなくなった。自分の家庭で手一杯になっている。ボランティアの精神をもちながら、提供した労力に対する対価はもらえる。そうした仕組みづくりがソーシャルビジネスに結びついていく。
- ・現状として危惧しているのは、高齢者下宿等が林立しているが、利用者保護のきちんとしたチェック機能が働いていないということ。規制をしっかりとしていくことが必要。
- ・ふだんの声かけなどは互助でできるが、それを越える部分をソーシャルビジネス的な展開で進めることが重要。

(岩淵)

- ・街なかでソーシャルビジネスが展開される課題として賃料が高いという課題にどう応えるか。固定資産税の事情等考えると難しい。「安く使える工夫」にはどんな提案できるかは課題。
- ・誰がプランを進めるのか。例えば、コーディネーターはどう育成するのか。
- ・高齢者や母子世帯が弱者として取り上げられているが、こうした人たちは本当に弱者なのか。
- ・二地域居住をする高齢者が元気な場合も多い。お互いがお互いを助けていく仕組みがもっと謳われていると良いと思う。

(金子)

< 6章 >

- ・安心安全の住まいづくりについて、どこまでが仕事でどこからがボランティアか。区別がつかないものがある。建築士会の仕事のなかでも一般の方からの相談を受けているが、どこまで責任を持つかが難しい。
- ・医療について、近くに総合病院のないモデル地区ゾーンに二地域・季節居住をする際、日赤病院に行かなければいけないときには、さらにそれを支える交通の仕組み等が必要になるのでは。
- ・会員制タイムシェア方式について、たとえば郊外居住高齢者等は同じ地域内で居住のためのグループをつくるということだが、グループをつくれる人たちなら現状居住する地域内でそうした展開が可能なのではないか。

(金子)

- ・対象地域にある町内会の加入率は50%以下。町内会加入者のなかで共同住宅に入るニーズはあるだろうか。
- ・NPO等が必要なサービスを担っていくことは考えられると思うが、モデル地区ゾーンの居住者のニーズを汲み取る必要がある。種がないといけない。地域居住者の元気な人たちをど

れだけ生かせるか。地域食堂もそうした地域の不安を汲み取ってできている。

- ・「ライフケアビレッジ推進協議会」という連携のプラットフォーム。私たちが拠点づくりの際には一級建築士の方など、いろいろな人にご協力をいただいた。最初はボランティアで、実際に展開が始まり、お金ができたときに「あの時の設計料」をお支払いした。**最初はまちづくりに対する意気込みで集まってもらうことが必要ではないか。**

(岩淵)

- ・モデル地区ゾーンは空き家・空き店舗が多く存在しているとある。それには理由がある。そうしたストックを二地域居住の受け皿として提供とあるが、**人が一回出て行ってしまったストックに人が再度入るのだろうか。**
- ・理由はいろいろあると思うが、他地域が参考にしたいと思うモデルのためには**課題をしっかりと示しておく必要がある**のではないか。
- ・63 ページ「住まいの情報提供・仲介」とあるが、**空き家・空き室の情報提供の場**がないと次に進めないのではないか。

(田中)

- ・もともとの発想は街なかの空洞化を何とかすることだったと思う。その中で高齢者に来てもらう、長期滞在者に来てもらう、そして賑わいを取り戻すということだと思う。
- ・どのような魅力的なまちづくりにすれば人が来るのか。難しい部分ではあるが、そのためには、**衣食住や街を楽しむ部分、あるいは医療の部分が揃って初めて、自然発生的にまちの魅力はでてくる**ものと思う。
- ・居住をするには居住するための環境を作らなければいけない。例えば、中心市街地で100坪の土地を買うとなると固定資産税だけでも大変。それを安く借りて利用することが今回の発想。固定資産税をどうするか、借りるための支援をどうするか、それを考えていかないといけない。
- ・我々にとっても非常に興味のあるプラン。例えば、短期の貸し出しだが、**業者との競合**もある。釧路市内には不動産関連企業が150社ほどある。
- ・全体的な考え方とすれば、釧路市にこういうことがあっても良いと思えるユニークなもの。**喜んで住んでもらうためには自由な投資が可能になる環境づくりが必要。何か手をつけていかなければ。**そのとおりだと思う。

(木村)

- ・**実行段階に早くつなげてほしい。**住まいができ、様々な形がついて発展していくのだと思う。第一段階としてこのなかの要素をつめていかなければ。
- ・広域圏住民をまず優先的に取り込み、第2段階として、首都圏居住者等の体験居住、将来的には移住へとつなげる。**釧路市民が増えるように。**そうしなければ釧路市自体の将来が見えてこないのでは。

(小原)

- ・貴重な経験をさせていただいた。今週の日経ビジネスに掲載されていたが、高齢化率のスピードは日本が一番速い。その日本のなかで北海道がモデルプランを先駆ける検討。成長社会から成熟社会にいたるなか、高齢者と若者の問題に対応するか。**経済的發展を迎えた国は必ず向かう成熟社会である。それに先がけて、行動しようとする事、若い世代に新たな雇用**

を提供をすることは意義があり重要なことである。

(委員長)

(4) その他

- ・本議論のとりまとめは事務局で行い、委員長のご意見をいただくことでお預かりしたい。
- ・プランづくりの調査を行った。今後の展開にむけて、その節にはご協力をお願いしたい。
- ・他成果報告の日程等について確認

(藤澤)

3. 閉会挨拶

以上

市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

街なか暮らしワークショップ 第 1 回 次第

モデル地区における「ライフケアビレッジ」のイメージ

平成 21 年 12 月 14 日（月） 19 時～21 時くらい

（於：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 観光交流コーナー「地域の縁側」）

●第 1 回：「イメージ」をつかむ
モデル地区における
ライフケアビレッジのイ
メージを検討する

●第 2 回：「プログラム」を
考える
ライフケアビレッジの
展開プログラムを検討する

●第 3 回：「素案」を検討す
る
ライフケアビレッジの
パイロットプランの素案
（たたき台）を検討する

本日のプログラム

1. 開会あいさつ

2. オリエンテーション

- ①「ライフケアビレッジ」の展開方策調査について（確認） 【資料 1】
- ②「ライフケアビレッジ」のモデル地区と展開イメージについて 【資料 2-1～4】
- ③市民アンケート調査結果の報告と分析について 【資料 3-1～2】
- ④街なか暮らしワークショップの進め方について 【資料 4】
- ⑤グループワークの進め方について

3. グループワーク

- ①グループワーク
「モデル地区におけるライフケアビレッジのイメージを検討する」
- ②意見の取りまとめ・発表準備

4. グループごとの発表

5. 本日のまとめ

6. その他（日程確認等）

7. 閉会・解散

配付資料リスト

○第 1 回ワークショップ次第

○資料 1 : 調査概要

○資料 2-1 : 「ライフケアビレッジ」のモデル地区＝旭町地区ゾーン図と現況写真

○資料 2-2 : 釧路市中心市街地ランドデザイン

○資料 2-3 : モデル地区「旭町地区」の特性と暮らしの資源

○資料 2-4 : 「ライフケアビレッジ」の展開イメージ

○資料 3-1 : 市民アンケート調査結果の報告と分析（単純集計）

○資料 3-2 : 市民アンケート調査結果の報告と分析（クロス集計～速報版～）

○資料 3-3 : モデル地区「旭町地区」の暮らしの資源マップ

○資料 4 : 「街なか暮らしワークショップ」の進め方

Aグループのワークシート

課題

- 中心市街地の都市計画**
 - ・右肩下がりの市街地再整備
 - ・規制市街地の縮小（コンパクトシティ）
 - ・郊外の利便性が高くなる
- 地価が高い**
 - ・土地単価が高い
 - ・家賃、地価が郊外より高い
- 土地活用・空き家情報の提供**
 - ・空家情報の提供
 - ・土地の所有者に有効活用してもらう
 - ・不動産の流動性

人材

- リーダーと人材**
 - ・リーダーを決める
 - ・**短い手の存在**
- コーディネーター・まちづくりの知識**
 - ・コーディネーター（地域と人をつなぐ人）の存在
 - ・住民と行政の協働やソーシャルビジネスの知識

目的を明確に

- ・目標数値を決める
- ・対象者を明確に
- ・当事業のこともっとPRする
- ・納期を決める

資料 3-4-3. 街なか暮らしワークショップ第1回 各グループのまとめ

交通

- バスの整備・料金体系の工夫**
 - ・公共交通、バスの整備→旭町の人は無料のよ
 - うな
 - ・大学までのバスを運行する→安くしてほしい
 - ・釧路くらの大きい大きさをたたら車でも行
 - ける。バスの整備など

医療

- 医療施設の充実**
 - ・高齢者が安心して暮らせるよう、医療施設の
 - 充実
 - ・医療施設がない
 - ・病院の誘致
- 健康づくりの取り組み**
 - ・40~60代くらの方の筋トレ

利便性・商業施設

- 生活利便施設の充実（日用品）**
 - ・生活利便施設の充実（日常用品の購入等）
 - ・日用品が買える店（中心部の店は値段が高い）
 - ・若者にとっても魅力あるもの ハードソフト
 - が必要
 - 多世代交流**
 - ・専門店が多い
 - ・安い物がその場で全て終わらない
- 食料品の購入**
 - ・新鮮な食材が安く買える店がほしい
 - ・食料品店が必要
 - ・食品売り場が少ない

コミュニティ

- ゆるやかな交流の場**
 - ・若い世代と高齢者の交流できる場所をつくる
 - ・高齢者などが集まれる店
 - ・料理の作り方をおばあちゃんに教えてもらう
 - ・ゆるやかな人間関係
 - ・居場所
- 地域のコミュニティづくり**
 - ・地区間の連携
 - ・水平関係
 - ・縦社会
 - ・コミュニティ
 - 共同居住（下宿）家賃1~3万円**

住居

- コンセプトを明確に**
 - ・コンセプト型施設
 - ・総合施設（居住型）
 - 対象毎にコンセプトを明確にマンションを
 - たてる
 - ・安く住める住居
 - ・住みたいと思う家

安全・安心

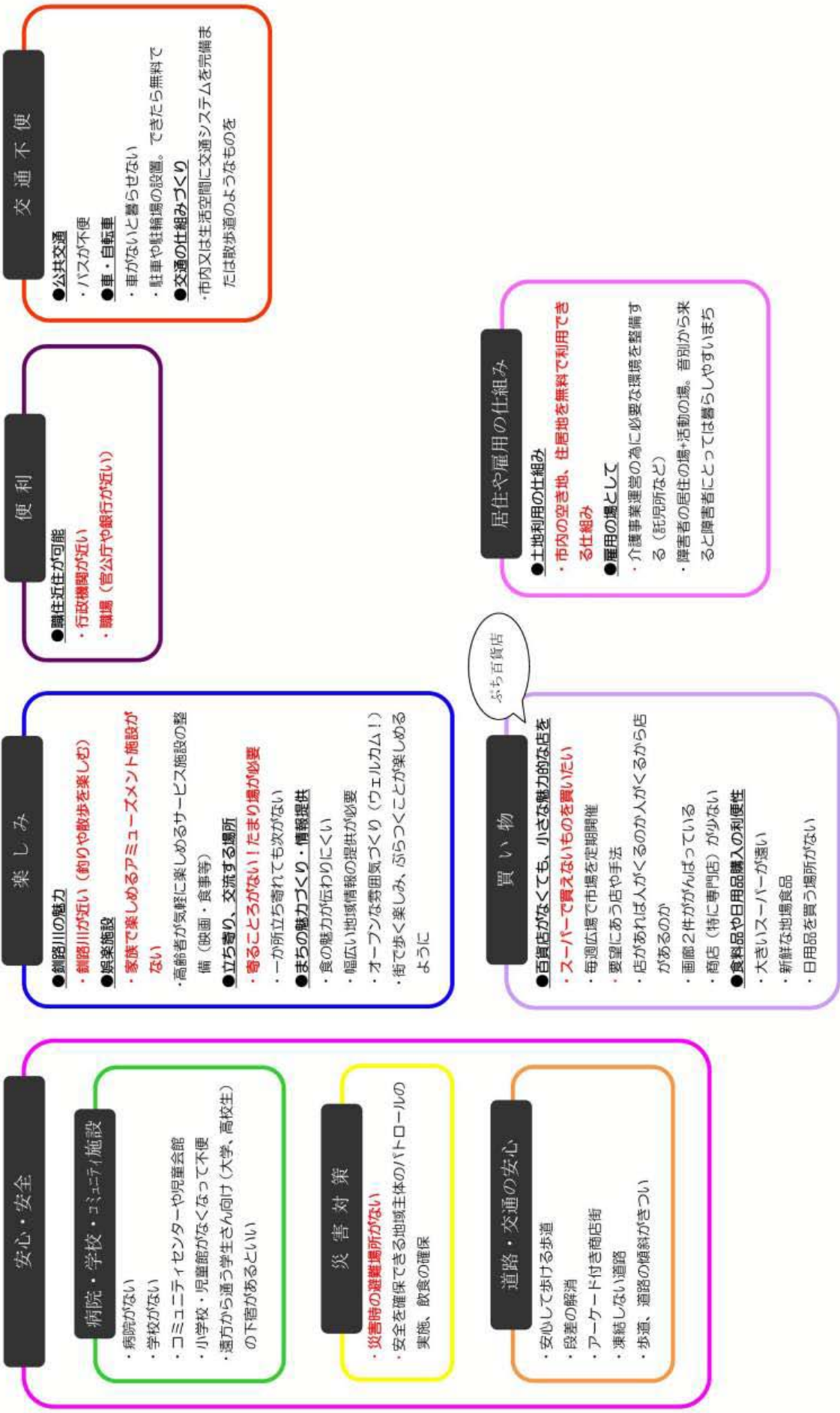
- 歩行者の安全確保**
 - ・交通量が多い地区なので歩行者、自転車でも
 - 安全な街づくり
- 防犯対策**
 - ・夜廻いので、街燈を増やす
 - ・喫煙ゾーンと近いので、居住区としての安全
 - 防犯対策

- 中心地に住むメリットを増やす**
 - ・明るい街づくり

目標

- 若者の居住を増やす環境づくり**
 - ・若者、若い夫婦世帯を増やす
 - ・子育てできる居住環境、就労場所、学校、保育園。環境的にも
- 居住者、町内会加入者を増やす**
 - ・居住者を増やす
 - ・町内会の加入者を増やす

Bグループのワークシート



Cグループのワークシート

有休地の活用

- 地産地消の魅力づくりの場・市場の設置**
 - ・旭小跡地を畑に。校舎を地産地消の場に
 - ・畑
 - ・朝市（自営農園）
 - ・畑があること

若者パワー

- ・公立と鉾教大
- ・学生の交流

つながりづくり

- イベントの活用**
 - ・アミューズメントの存在
 - ・祭・イベント
 - ・イベントで人と人を結びつけるには？・行政と地域のつながりを重視する
 - ・イベントの有機的な継続性
 - ・子どもが喜ぶイベントの開催
 - ・人が集まるイベントの開催
- 高齢者の生きがいづくり**
 - ・高齢者のワザを發揮できる場を！
- 行政、市民、団体のつながり**
 - ・行政と会議所

まちなかコミュニティ

- 食でつながる**
 - ・まちなか食堂・サロンの存在
 - ・コミュニティレストラン（町内会）
- 銭湯でつながる**
 - ・街なか交流銭湯 サロン機能
 - ・街なかに大きな銭湯を作って！
- 多世代交流・子育て支援でつながる**
 - ・高齢者と子どもが交流できる場
 - ・保育所（女性）
- 観光でつながる**
 - ・地域の人手伝いの観光相談

コーディネート

- つながる場**
 - ・個の力が発揮できる場
 - ・アイデアをまとめる場
 - ・居場所→みんなが居て楽しいと思える場所
 - ・年齢問わず集える居場所をつくる（空き店舗などの利用）
- つなげる人**
 - ・コーディネーター、人をつなぐ人
 - ・相談者
 - ・コミュニティ、町内会などまとめ役
- 情報提供の仕組み**
 - ・サービスを提供できる人と受けたい人の橋渡しのシステムづくり
 - ・転勤族の方へ情報サービス

身近なお店

- ・買い物のしやすさ
- ・空き店舗のレンタル・サークル、団体の活用
 - イベント開催等へ
- ・食料品を買えるお店
- ・学生が楽しく過ごせるお店
- ・生活用品の店舗

散歩道の整備

- ・ウォーキングコース
- ・散歩道（冬場／自然）
- ・歴史的史跡
- ・北大通、大通公園
- ・リバーサイドとの連携道路

福祉・医療サービス

- ・医療
- ・鉾路社協を軸とした福祉サービス

ハードの整備

- 住居について**
 - ・住宅の確保
 - ・土地、建物の所有者との調査
- 駐車場について**
 - ・無料駐車場
 - ・駐車場（空地の使途）
- 安全・安心について**
 - ・安全防災
 - ・冬道に横断歩道がすべる。すべらない工夫を
 - ・冬期間の周辺環境

市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

街なか暮らしワークショップ 第 2 回 次第**「ライフケアビレッジ」の展開プログラムを検討する**

平成 22 年 1 月 15 日（金）19 時～21 時くらい

（ 於 ： 釧路市観光国際交流センター研修室 3 ）

●第 1 回：「イメージ」をつかむ
モデル地区におけるライフケアビレッジのイメージを検討する

●第 2 回：「プログラム」を考える
ライフケアビレッジの展開プログラムを検討する

●第 3 回：「素案」を検討する
ライフケアビレッジのパイロットプランの素案を検討する

本日のプログラム

1. 開会あいさつ
2. 第 1 回ワークショップの振り返り
 - 第 1 回「街なか暮らしワークショップ」のまとめ 【資料 1】
3. オリエンテーション
 - ①アンケート、ヒアリング調査の結果報告 【資料 2-1～3】
 - ②モデル地区の分析について 【資料 3-1～3】
 - ③「ライフケアビレッジ」パイロットプランの構成イメージについて
「ライフケアビレッジ」の展開プログラムについて 【資料 4-1～4】
4. グループワーク
 - ①グループワーク：「ライフケアビレッジ」の展開プログラムを検討する
 - ②意見の取りまとめ・発表準備
5. グループごとの発表
6. 本日のまとめ
7. その他（日程確認等）
8. 閉会・解散

配布資料リスト

○第 2 回ワークショップ次第

○第 2 回ワークショップグループ表

○資料 1-1：第 1 回ワークショップのまとめ

モデル地区「旭町地区」における「ライフケアビレッジ」のイメージ

○資料 1-2：A～C テーブルのまとめ

○資料 2-1：市民アンケート結果に見るライフケアビレッジ居住者像のイメージ

○資料 2-2：釧路市郊外居住高齢者面談調査概要報告（速報版）

○資料 2-3：釧路市短期下宿受入施設面談調査概要報告（速報版）

○資料 3-1：モデル地区の人口・世帯の現況と特性

○資料 3-2：モデル地区の土地・建物の現状と特性

○資料 3-3：モデル地区「旭町地区」の暮らしの資源マップ

○資料 4-1：「ライフケアビレッジ」パイロットプランの構成イメージについて

○資料 4-2：「ライフケアビレッジ」の展開プログラム(1)住まいづくりのプログラム

○資料 4-3：「ライフケアビレッジ」の展開プログラム(2)暮らしを支えるプログラム

○資料 4-4：「ライフケアビレッジ」の展開プログラム(3)暮らしを楽しむプログラム

住まいづくりのプログラム

- **空き家・空き室の低賃料提供**
 - ・有効活用させるための賃借双方の情報提供
- **学童施設**
 - ・幼児から高校生まで誰でもOK
 - ・見守る側として高齢者の参加
- **長期滞在者ターゲットプログラム**
 - ・高齢者への宅配・介護などサービス提供
 - ・家具付きウィークリーマンション (6月~9月)
 - ・情報提供 (飲食店・観光名所・不動産など)

居場所

- **「縁側づくり」**
 - ・多世代が交流できる場、コミュニティの醸成の場
- **安心な生活**
 - ・住民の悩み心配に対応する体制
 - ・生活を支援するコーディネーター
- **コミュニティサロン “大人の児童館”**
 - ・大人も子どもも集まる、話す、楽しむ
 - **町内会特別会員制度**
 - ・短期、季節居住の際の町内会の回覧やイベントへの参加の仕組づくり
- **健康づくりの場**
 - ・剣路人は歩かない、積極的に運動できる機会を持って健康に暮らす

- **北大通で市民講座を聞く**
 - ・公立大、教育大の講義が受けられる
 - ・学生の研究発表の場
 - ・テーマ北大通の活性化
 - ・場所は多い空き店舗を活用できないか
- **公共施設の積極活用**
 - ・MOOのドームを憩いの場に
 - ・四季を通してお茶などを飲めるようなカフェを併設

暮らしを楽しむプログラム

- **メンタルヘルスサポートできる場**
 - ・高齢者の移転は認知症も引き出す可能性有 (若者も同じ)
- **コミュニティセンター**
 - ・多様な方々が集い交流活動できる場所

職

- **雇用創出プログラム**
 - ・高齢者暮らし支援につながる就労の場 (若者の雇用創出)
- **就活を支えてくれる場**
 - ・様々な職業の人から話を聞ける場
 - ・就活について相談できる場づくり

足

- **地域の“あし”**
 - ・地域中での交通を考える
 - ・レンタルサイクル
 - ・ヘロタクシー etc

医

- **信頼できる内科医院の誘致**
 - ・高齢者は病院を好む傾向
- **医療・福祉 ライフケアビルディング**
 - ・現計画では不空。地区内に医療と福祉の拠点が必要

食

- **地場産品の買える店、食べれる店**
 - ・地域の中で地域産品を買える (アソナショップ)
- **マルシェ&カフェ**
 - ・地元の食材が安く食べられる場所
 - ・1皿100円くらいでたくさん食べられる
 - ・夜の遅い時間まで開いている
- **信頼できる地元スーパー**
 - ・町内収支を考え地域に金が確実に落ちる仕組みが必要
 - ・地域産品を食べる・作るのには地域の人が?
 - ・ワンデイシェフ
 - ・新鮮な地場産品が購入できる。マルシェのとりには商品を取り入れたメニューのあるカフェ
 - ・若者から高齢者まで様々な年代の人たちが訪れたいくなる工夫
- **北大通で畑をつくろう!!**
 - ・街なかのイベントのゴミで堆肥をつくって、畑で使用する
 - ・費用がかからない
 - ・小麦粉→くしろラーメン (地元の小麦粉で)
 - ・そば粉→ガレット
 - ・空いている土地は畑に!! 販売もする。食堂で食べる

暮らしを支えるプログラム

B グループのワークシート

住まいづくりのプログラム

●若者とコミュニティづくりを

- ・中高生版児童館のような中高生が集まる場づくり
- ・ライブハウスなど披露する場
- ・楽器の貸出

●防音ルーム

- ・交流施設を中心に展開できる都市計画
- ・地区会館を多世代が共用する

●短期居住

- ・空き部屋を1ヶ月単位で安く住めるようにする仕組み

●ホテル→高齢者住宅へ

- ・空室の目立つビジネスホテルを高齢者住宅へ転換促進
→補助規制緩和と必要
- 「釧路ホテル特区」できないか

●視察対応、潜在案内

- ・釧路のNPO・まちづくりの視察が増加！
- ・店の情報提供等受け入れ体制を整備

釧路スタイルをつくらう！

- ・住民出資型＝釧路スタイル
- ・特色や強み、いいものを打ち出す「特区」
- ロシア特区やコールマイルン関係でベトナム特区など、いいもの特区

暮らしを支えるプログラム

●交通

- ・カーシェアリング
- ・釧路川で水陸両用車
- ・買い物や通院のため、車の乗り合いサービス・仕組み
- ・街なか無料バスの運行。
- ・街なかでの買い物ポイントをとめて乗車料金が安くなるなど

●子育て

- ・子育てサークルのたまり場が華よう
- ・子どものあそびあいサービス、仕組み、場所
- ・お祭りや季節の行事を子どもにも伝えたい。
- ・高齢者が子どもを面倒をみる。養育施設

●仕組み

- ・ポランティアバンク
- ・地域通貨
- ・冬期間の除雪を子どもにも伝えたい。
- ・定期的な家庭訪問を保健婦さんたちなどにももらえるシステム

暮らしを楽しむプログラム

空き店舗の活用！

●仕組みづくり

- ・空き店舗で何をしても良い日を定期的につくる
- ・空き店舗を1日単位で借りられる仕組みづくり

●ビジネスやショップの展開

- ・貸し会議室
- ・貸しダンスフロア
- ・複数の空き店舗でスポット的に展開。フリーマーケットの実施。まちを散策するようになる
- ・ビジネススクール
- ・期間限定コンセプトショップ
- ・アートミュージアム
- ・オープンカフェ等オシャレ感のあるまちづくり

集まれ！転動族

- ・転動族が集まるコミュニティハウス
- ・市外出身者、移住者のウェルカムパーティー

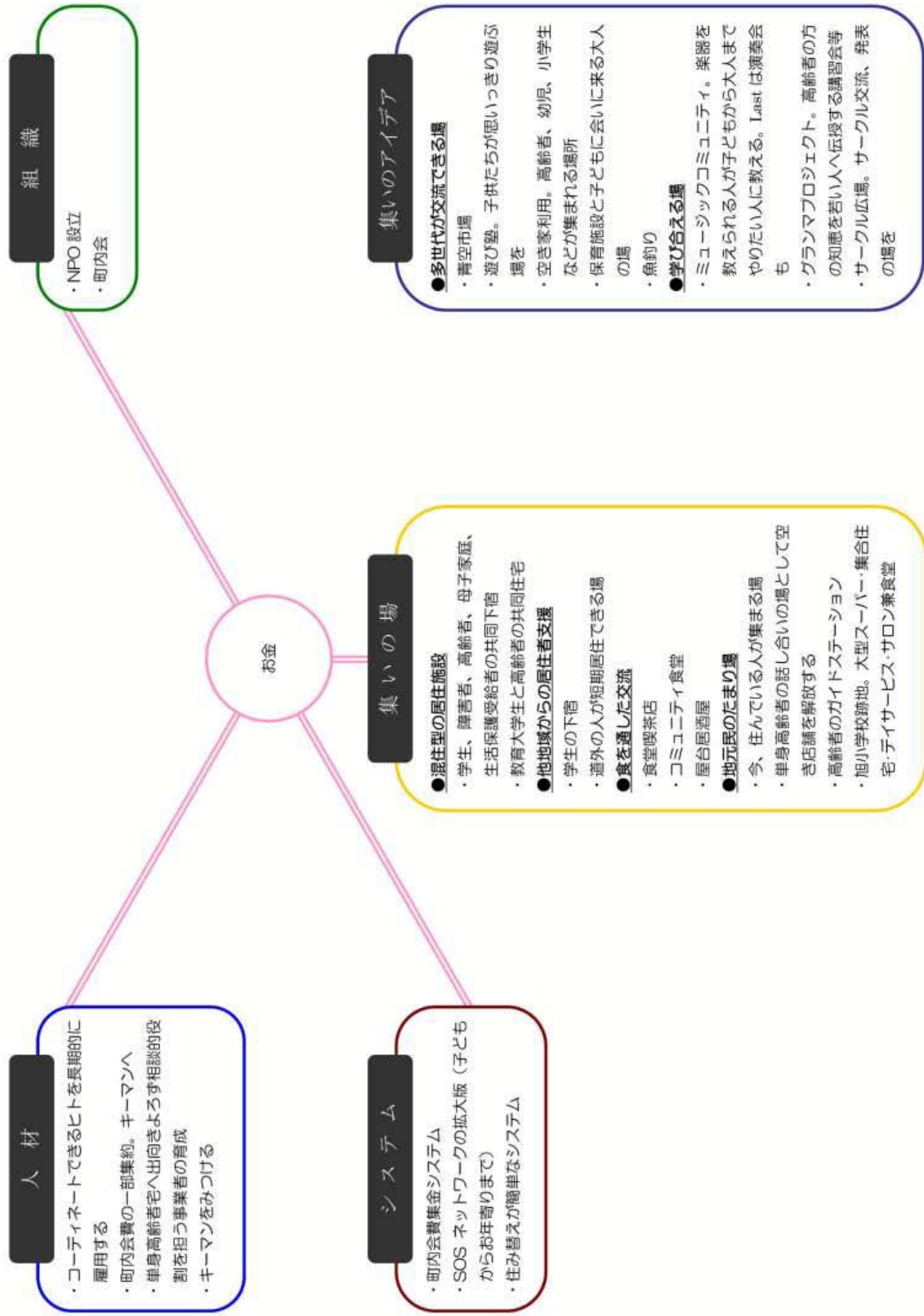
プチ・映画館、上映会

- ・安価で楽しめるプチ映画館をつくる
- ・住民の出資で。
- ・子どももみられる映画・演劇・ホール

●青空市場プロジェクト！

- ・工口雑貨の販売、おばあちゃんの手作りや知恵を活かして。
- ・生鮮食品が買えるスーパーが必要
- ・空き店舗利用の定期的な食品市場
- ・地域食堂（高齢者・単身者向け）
- ・地元の食材を活かした家庭料理教室（魚やお雑煮）
- ・食堂やカフェ&談話スペース
- ・道東の食材を使っている食堂。朝昼晩食べられるところ
- ・農家産直、阿寒農園等
- ・今ある店の軒下で展開
- ・駐車場をつかって、移動の青空市場を展開
- ・野菜は週2回くらいタンパク質1回くらいタームで販売。無理なく、細く長く続けるために。
- ・野菜購入したい利用者が資金提供し野菜づくりを依頼
- ・堆肥チケット発行
- ・旭町青空市場組合を設立しよう
- ・利益が出たら？

Cグループのワークシート



市民協働による安心な街なか季節居住を実現する「ライフケアビレッジ」の展開方策調査

街なか暮らしワークショップ第 3 回（最終回） 次第

“「ライフケアビレッジ」のパイロットプラン素案 “ を検討する

平成 22 年 2 月 16 日（火） 19 時～21 時くらい

（ 於 ： 釧路市民活動センター わっと 2 階会議室 ）

●第 1 回：「イメージ」をつかむ

モデル地区における
ライフケアビレッジのイメ
ージを検討する

●第 2 回：「プログラム」を 考える

ライフケアビレッジの
展開プログラムを検討する

●第 3 回：「素案」を検討す る

ライフケアビレッジの
パイロットプランの素案
を検討する

本日のプログラム

1. 開会あいさつ

2. 全体ワークショップ

- ①第 1・2 回「街なか暮らしワークショップ」の意見の確認 【資料 1-1～2】
- ②「ライフケアビレッジ」パイロットプランの構成案と全体像の検討 【資料 2-1～2】
- ③「ライフケアビレッジ」の展開プログラムの検討 【資料 3-1～3-2】
- ④ソーシャルビジネスの具体的プログラムの検討 【資料 4-1～4-2】
- ⑤地域マネジメントの仕組みづくりの検討 【資料 5-1～2】

3. まとめ

4. その他

5. 閉会・解散

配布資料リスト

- 第 3 回ワークショップ次第（案）
- 第 3 回ワークショップグループ表

- 資料 1-1：第 1 回ワークショップのまとめ
 - モデル地区「旭町地区」における「ライフケアビレッジ」のイメージ
- 資料 1-2：第 2 回ワークショップのまとめ「ライフケアビレッジ」の展開プログラム

- 資料 2-1：「ライフケアビレッジ」のパイロットプランの骨子案
- 資料 2-2：「ライフケアビレッジ」展開プログラムの全体像（活動主体とプロジェクトの構成イメージ）

- 資料 3-1-1～4：「ライフケアビレッジ」の展開プログラム〈モデル 1～4〉
 - <1>市内郊外居住高齢者の街なか居住体験・住み替えの支援
 - <2>地区内居住高齢者の共同建替・共同生活の支援
 - <3>釧路・根室広域圏住民の短期滞在・大都市住民の夏季長期滞在の支援
 - <4>母子世帯の自立支援・就労支援
- 資料 3-2：空き家・空き室等を活用した住まいづくりのイメージ

- 資料 4-1-1：「地域の縁側」社会実験事業概要報告① ～実施概要
- 資料 4-1-2：「地域の縁側」社会実験事業概要報告② ～来場者アンケート調査結果

- 資料 4-2-1：空き家・空き店舗等を活用したソーシャルビジネスの展開事例（釧路市内の事例）
- 資料 4-2-2：空き家・空き店舗等を活用したソーシャルビジネスの展開事例（他都市事例）
- 資料 4-2-3：モデル地区の空き家・空き室・空き店舗等の現状

- 資料 5-1：「地域マネジメント」の仕組みづくり
- 資料 5-2：「地域マネジメント」の仕組みの事例

パイロットプランの構成案と全体像の検討～「ライフケアビレッジ」とWSについて質疑応答～

Q. 「ライフケアビレッジ」とは「高齢者を集めるまち」なのか。

・既に高齢化が進んでいるモデル地区ゾーンにさらに高齢者が集まることには違和感を感じる。

→A. 住まい方は「多世代混住」。

- ・今後は高齢化が進み、高齢者が多くなる。
- ・住まいとして高齢者を中心にした、暮らしやすい住まいづくりを想定している。
- ・住まい方のイメージは多世代が混住し支え合う形を想定。

Q. 「ライフケアビレッジ」の目的・ゴールとは。

・今のプランにゴール設定はない。人と人、プログラムの連携反応でまちが変わり、目標も変わっていく。

→A. まずは連携する、考えてみることを始めることが目的。

- ・一つひとつの事業の目的を達成し、事業を積み重ねて成立すると考える。
- ・本調査の目的は、まちづくりの連携の動きをつくること、スタートすること。

Q. WS参加者の私たちの役割とは。

→A. 意見、つながりづくり、将来にむけた検討

- ・パイロットプランづくりに意見をよせてもらうこと
- ・まちづくりのための連携づくり
- ・「ビレッジ」検討をきっかけとして、個人・団体の活動を広げる機会づくり
- ・「ビレッジ」のなかで展開できるソーシャルビジネス・サービス具体化にむけた繋がりの場
- ・将来的な事業参加の検討

まちづくりの資金はどうするのか

- ・まちづくりのコーディネーターが必要である。町内会費等で人件費を積み立てて、招聘してはどうか。
- ・まちづくり自販機設置（1本買うと、その企業から寄付が特定の団体に寄付がされる）。
- ・企業のCSRによる寄付が受けられる仕組みづくり。

旧旭小学校の活用

- ・地域の人で大切に活用したり、工夫したい場所。
- ・複合型施設にして、展開できないか。

Q. 出した意見は行政施策に反映されるのか

→A. 市作成パイロットプランに反映＝将来像へ

- ・「ライフケアビレッジ」パイロットプランに反映される＝将来的な施策への反映
- ・推進は、皆さんと一緒に。

Q. 自分たちでプランを進めるということ？

- A. 参加者、地域の人、行政・みなさんで
- ・WS、策定委員メンバー、地域の人、高齢者、行政みんなで考える
- ・この場合は「プランや事業参画を決める」場ではない。プランをスタートする仕組みづくり・具体化づくりを検討する場。

Q. なぜモデル地区ゾーンは旭町界隈なのか？釧路駅～幣舞橋のラインのほうがいいのでは？

→A. 釧路市中心市街地ランドデザインとコミュニティ・都市機能の存在による

- ・「釧路市中心市街地ランドデザイン」の「居住推進ゾーン」のうち、都市機能「釧路市社会福祉協議会」「母子家庭等自立支援センター」があり、地域コミュニティが維持されているため、設定した。

Q. 北大通をどう捉えているか、北大通の今後の展開は活性化にとって重要

- ・北大通は課題が多い。大通公園のように全体を公園化してはどうか。

Q. 北大通・中心市街地の賃料の高さが課題

- ・北大通は路線価が暴落している。人が来ていない。
- ・半年間家賃無料等、実験事業を展開しては、
- ・街なかの高いお金を払おうという魅力はない。
- ・郊外に比較して、家賃がとて高い。
- ・賃料を安くする方法・仕組みの検討が必要。

→A. 「ライフケアビレッジ」の仕組みづくりのなかでは例えば「サブリース」を検討

- ・事業者がオーナーを誘得。まとまった面積を低廉に借りる。
- ・リノベーション等で土地の価値をあげる。
- ・そうした仕組みを遊休資産オーナーに理解してもらおうための説明が必要。

「ライフケアビレッジ」展開プログラムの検討

遊休資産の活用方策が重要

●遊休資産の活用が重要

- ・人が来る二店がある。いかに活用がはしまるかが大切
- ・空きがあるくらいなら、家賃が安くても入居してもらった方がいいのでは
- ・北大通のエリア全体の賃料を安くするモデル事業などの実施
- ・北大通周辺に高い賃料を払うまでの魅力を感じない

●遊休資産オーナーとの連携

- ・土地の権利関係が複雑で、オーナーが不明な場合が多い。土地所有関係の整理が必要
- ・オーナーの意向調査と活用を促進する取組の実施
- ・まちづくりの視点をもった遊休資産活用をオーナーにむけて啓蒙

●土地権利関係の複雑さが課題

- ・土地権利者と建物権利者とが異なる場合が多い
- ・状況整理が必要。個人情報関係から個人でも困難。行政で工夫できないか

●空き店舗の情報提供

- ・空き店舗情報がわからない。一元化して情報提供できる仕組みづくりを

高齢者生活支援サービスと就業機会拡大のマッチング

- ・介護ヘルパーの労働環境改善にむけたサポート
- ・母子家庭等の就業支援・中間的就業機会の促進。高齢者施設で子どもの見守りを受け、勤務する仕組みづくり
- ・高齢者施設等での生活支援サービスとのマッチングは重要。母子家庭にとって子育て世代の母親の職住近接が可能になることは望ましい。子育て支援サポートにも

若者の「出る幕」づくり

- ・「ビレッジ」の基本的な考え方②～⑥の担い手としての主体は「若者」。若者が住まいやすい場に
- ・モデル地区は繁華街周辺。遊びのスポット展開もでき若者が住みやすい場所といえる

郊外居住高齢者の居住について

- ・街なかに無理につれてくるのは生活の充実につながらない
- ・地域コミュニティ衰退のみられる地域は、新たなつながりづくりをしやすい場所で、別途滞在を奨励することはあり得るのでは

地域マネジメントの仕組みづくり

まちづくりのネットワークづくり

- ・コーディネーター的存在が重要。町内会費等から人件費を積み立てて招致しては
- ・まちづくりのネットワークづくりも資金が必要だが、資金調達は諸般手段がありえろと思う

地域の縁側づくり

- ・「あの場所で、いつもやっている」。空きビルで実験的にというより、定着することが重要
- ・地域の縁側が幹路には足りない。モデル地区旭町に拠点を決めて設置、運営はやりたがりな私たちが？
- ・縁側は「派生・発信・影響を与えられる」場所に。カフェやサロン等が望ましい

地域を見守る仕組み～WSを夢物語にしないために

- ・こうしたまちづくりプランは行政が「やって」といえることではない。住民が自発的・主体的に実施すること
- ・ただ、地域の住民だけでも難しい。行政やまちづくりのコーディネーター・関連会社やまちづくり会社か・・・地域を見守り、はげます仕組みが必要

「ライフケアビレッジ」プランのこれからはどうするのか？

- ・立ち上がる人が必要、ということか
- ・地域の若者・働きざかり世代がどう考えるか。

→マネジメント組織につながる、まちづくりを考えるような場をつくったら参加するか？

- ・町内会は衰退している。日常を支えている町内会の視点からからのまちづくりも必要
- ・WSは新たなつながりや、まちづくりについて新たな視野がもてるよい機会、そうした場がつくられるのは望ましい
- ・「ライフビレッジ」の企画が一人歩きするのは好ましくない。まちづくりは地域の自分たちが自発的に考え動かねばならない。
- ・旭町はよいまち。より住みやすい、暮らしやすいまちづくりを考え実践する機会があったのはうれしいこと
- ・しかし実践したり検討したりするのは私たち住民自身。国や市は助け・見守り。その機会があるのはいいこと

15. 「地域の縁側づくり事業」に係る実証実験の実施

資料 4-1. 市民団体向け参加募集チラシ(表・裏面)

資料 4-2. 一般向けチラシ(表・裏面)

資料 4-3. 来場者向けアンケート調査票(表・裏面)

資料 4-4. 会場掲示用 事業概要説明パネル(4 枚)

資料 4-5. 参加団体向けヒアリングシート

資料 4-6. 「地域の縁側」に関する新聞記事

「地域の縁側」づくり実証実験 参加団体急募!!

釧路市では MOO において「地域の縁側」づくり実証実験」を実施します。

12月10日から1月11日までの期間、MOO2Fの観光交流コーナーに、市民の方や観光客の方に気軽に休んでいただけるスペースを設けるとともに、NPOや市民団体の方々に、さまざまな取り組みを実施できるスペースとしてお使いいただけます。ぜひご活用ください!



※イメージ写真です

不特定多数の方を対象にした「暮らし・住まいに関する取り組み」「高齢者福祉・介護・保健に関する取り組み」「その他、市民の皆様の交流につながる取り組み」にご活用いただけます。

使用例

- 講座やセミナー、映画会、読み聞かせ会などのミニイベント
- パネルや作品の展示会
- 料理やお菓子の調理講習会

- ブースを設置しての相談会
- 会報やパンフレットの設置

期間 平成21年12月10日(木)～平成22年1月11日(月・祝)※元旦は休館

時間 10:00～19:00(延長も可能。応相談)
※12/31、1/2～4は10:00～17:00

MOO2F 観光交流コーナー

料金 無料(イベントなどの実施にかかる経費はご負担ください)

主催 釧路市企画財政部企画課

ご興味がある方、まずはお問い合わせください!

○実証実験事務局：社団法人 北海道建築士会釧路支部(担当：松並)

〒085-0841 釧路市南大通3丁目2番17号

TEL/FAX: 0154-42-0033 E-mail: kushiro@h-ab.com

■できないこと：

- 宗教活動、政治活動に関すること。
- 会員勧誘を主目的にした取り組み。
- 営利活動（物販、販促活動、参加料金を取るイベントなど。ただし、非営利かつ実費徴収程度の場合は要相談）
- 会員など、特定の方を対象にした取り組み。
- 大きな音や臭い、ホコリが出る取り組み。

■その他（詳細はお問い合わせください！）：

- 利用日時の要望は先にお問い合わせいただいた団体を優先とさせていただきます。**問い合わせはお早めに！**
- 現在、コーナーに置いてあるもののほか、長机やパネル、調理台などをお貸しできます（無料）。
- 広報くしろやチラシ、プレスリリースなどで広報を行います。
- 参加者数の記録やイベント風景写真の撮影などをお願いします。
- 実験事業のため、不手際があった際はなにとぞご容赦くださいませ…。

※「地域の縁側」づくり実証実験の位置付け：

- 実証実験は釧路市と国土交通省、厚生労働省の協働による国土施策創発調査「ライフケアビレッジ展開方策調査」事業による取り組みです。
- 「ライフケアビレッジ展開方策調査」の趣旨は…
 - ・全国の地方都市では ①中心市街地の空洞化（空き地・空き店舗の増加）、②高齢者世帯の増加（コミュニティの力の低下）、③地域経済・雇用の低迷と生産年齢人口の流出が起りつつある。
 - ・中心市街地に高齢者を主対象とした住環境＝ライフケアビレッジを設置することで、①中心市街地にある遊休土地・建物の活用、②高齢者にとって安心・安全なコミュニティの再生、③民間投資・起業・就業の促進を図ることができるのではないかと？
 - ・その「ライフケアビレッジ」を釧路市の中心市街地をモデルに検討してみよう！
- この実証実験のほかに、市民向けのアンケート調査やヒアリング調査などを実施しています。

※「地域の縁側」づくり実証実験の目的：

- 「居住空間」だけでは高齢者が楽しく快適に「住まう」ことはできないと考えられます。
 - ◆暮らし・住まいに関する相談ができる窓口・仕組み
 - ◆介護・健康づくりの場所・支援の仕組み
 - ・楽しく食事ができる場所
 - ・便利に買い物ができる場所
 - ◆気軽に集まり会話・交流ができる場所…などが必要だと考えられます。これらのうち、特に◆のための場所・機能の試行として「地域の縁側」づくり実証実験を行うのです。
- 「地域の縁側」のイメージ：
さまざまな世代、さまざまな興味を持った市民、観光客…誰もが気軽に立ち寄って、自由に休んだり、交流したり、交流に結びつく取り組み・イベントが行われたり、住まいや暮らしに関する相談を受けられたり…といったことができる「サロンのなコミュニティスペース」を考えています。
- 「地域の縁側」づくり実証実験は、そのような空間を実験的に設置し一定期間運営することで、実際にそういった空間を設置する際の課題、アイデア、工夫を抽出し、効果を検証することを目的としています。

地域の縁

MOO 2階 観光交流コーナーに開設！

1カ月だけの



「地域の縁側」って…？

- お年寄りからお子様連れ、観光客の方など、多様な人がふらっと気軽に立ち寄って…
- 来た人同士がおしゃべりを楽しんだり…
- 飲み物を飲みながら自由に休んだり、待ち合わせをしたり…
- 楽しいイベントや活動が行われていたり…
- いろんな相談ができたり…… そんな場所です！

カフェサービス
あり ※有料

休憩
コーナーが
あります

イベント、
相談については
裏面を！

まずは気軽に立ち寄ってくださいね！

期間 平成21年12月10日(木)～平成22年1月11日(月・祝)
※元旦は休館

時間 午前10時～午後7時 ※12/31、1/2～4は午後5時まで
※イベント開催時間はイベントによって異なります(詳しくは裏面)

場所 釧路フィッシャーマンズワーフ MOO 2階「観光交流コーナー」

主催 釧路市企画財政部企画課

I. ライフケアビレッジ展開方策調査の趣旨とねらい

- 「地域の縁側」は「ライフケアビレッジ展開方策調査」事業による社会実験です
- 「ライフケアビレッジ展開方策調査」は釧路市と国土交通省、厚生労働省の協働による事業です。



Ⅱ. ライフケアビレッジ形成における考え方

「ライフケアビレッジ」をつくるためには、次のようなことが大切だと考えられます。

高齢者等が安心して暮らせるための街なかの住まいとコミュニティの形成



- ・ 郊外居住高齢者等の住替えや季節居住等のニーズに対応した住まいづくり
- ・ 暮らしの機能をコンパクトに集積した車に頼らなくても暮らせるまちづくり
- ・ 高齢者等の地域活動や交流を支援し、生き生きと暮らせる居場所づくり
- ・ 多世代が暮らし、顔の見える交流を深め、お互いを支え合うコミュニティづくり
- ・ 居住者、NPO、商店、企業、公共機関等が参加するまちづくり組織の形成

二地域居住・季節居住等の新しい住まい方・暮らし方の創出



- ・ 郊外の住宅と街なかの住宅を常時使い分けて暮らす居住スタイル
- ・ 郊外の住宅を保有しながら一定期間、街なかで暮らす居住スタイル
- ・ 週末や通院時などの短期間、街なかで滞在する居住スタイル
- ・ 市外居住者がセカンドハウス、長期滞在施設として利用する施設づくり
- ・ 二地域居住・季節居住・長期滞在者がシェアして利用できる施設づくり

安心な暮らしを支えるケアサービス・ソーシャルビジネスの創出



- ・ 高齢者支援サービス（健康づくり、介護サービス、文化活動、就労支援など）
- ・ 暮らし支援サービス（コミュニティカフェ、地域食堂、産直市場など）
- ・ 子育て支援サービス（保育所、託児所、学童クラブ、スクールなど）
- ・ 空き家や空き店舗等を活用し、ソーシャルビジネスの起業化を支援・促進
- ・ ソーシャルビジネスへの住民参加によるコミュニティの交流の活性化

Ⅲ. ライフケアビレッジの展開イメージ～その1

暮らしの支援



●介護予防・健康づくり講座や健康相談



●託老所や介護への支援・協力・交流



●子育て世代の交流、起業・就労の支援



●多世代の交流や見守りの場



●空きビルを活用した共用オフィス・チャリツ'ショップ



●地域ボランティアによる配食サービス

安心安全な住まい



●空き家を活用した介護事業所



●空き家を活用したコレクティブハウス



●バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した機能



●マンション型のコレクティブハウス



●気軽な短期居住の可能な住宅・居室



●街なか暮らしを支えあう仕組み

Ⅲ. ライフケアビレッジの展開イメージ～その2

まちの食堂



● 地元の食の魅力の再発見



● ふるさとの味の提供による交流



● 地域のボランティア等により地域住民に安価な食事等を提供し、子どもから高齢者までが集まり、交流を楽しむ



地域の縁側づくり



● 障がい者就労支援団体が運営する公共施設内カフェ



● ネットカフェ



● 小規模なコンサートやライブの実施



● 民家の軒先を開放し、ふるさとの味をお裾分け



● 子どもと一緒に遊びで交流



● 様々な世代、立場にある人が集まりふれあう場所

「地域の縁側」参加団体様向けヒアリングシート

2010/01/26

※1～3については、特に資料 A「設置の目的」をご参照ください。資料 B はご参考まで。

※4～5については、資料 C をご参照ください。

1. 「地域の縁側」にて貴団体で実施したイベント・取り組みについて：

- (1) 参加した感想
- (2) 今回、工夫したこと
- (3) 貴団体としての手ごたえ・効果
- (4) 困ったこと・課題

2. 「地域の縁側」の設置趣旨に関する、今回の評価、今後についてのアイデア・ご意見：

- (1) 趣旨 1：暮らし・住まい・その他に関する相談窓口・情報発信の場として
- (2) 趣旨 2：介護・健康づくりの場所・支援の仕組みとして
- (3) 趣旨 3：会話・交流の場として
- (4) 今回の課題

3. 「地域の縁側」を継続するなら…：

- (1) そもそも「地域の縁側」はあった方が良い？
- (2) どこ／どんな場所が良いか
- (3) 運営の仕組み・担い手
- (4) 地域の縁側にあるべき／あった方がよいもの・こと・人
- (5) 実施・継続の課題

4. 「ライフケアビレッジ」について：

- (1) 「展開プログラム」に関するアイデア・ご意見

5. 都心部でのソーシャルビジネスについて：

- (1) 貴団体・他団体による SB の実績、参考にすべき事例
- (2) 貴団体による SB の今後の展開や希望

6. その他：

釧路での長期滞在者誘致へ

市民と交流の場設置

10日から1カ月 映画やカフェ用意

高齢者層を主な対象に市中心部への長期滞在者誘致を進めている釧路市は、市民や観光客と長期滞在者が交流する場を実験的に設ける。「地域の縁側」と名付け、10日から約1カ月間、釧路フィッシャーマンズスワーフM O2階の観光交流コーナーに開設する。

市は、夏は涼しく冬は雪が少ない釧路の気候を生かした長期滞在者誘致の計画を年度内に

「地域の縁側」には有料のカフェサービスや休憩コーナーを設け、気候に立ち寄り、時間を過ごすことができる場とする。催しも企画し、10、11、14日には胆振管内むかわ町穂別地区のお年寄りたちによる映画「田んぼ

demュージカル」の3作品を順に上映。14日は健康よろず相談などを開く。

市は「市民や観光客もぶらりと立ち寄れる場にした」と、話している。

元日を除く来年1月11日までの午前10時～午後7時、31日と来年1月2～4日は午後5時まで。問い合わせは市企画課 ☎0154・31・4502へ。

(田子由紀)

北海道新聞 平成 21 年 12 月 4 日(金)付 夕刊地方面



釧路の「地域の縁側」
常駐スタッフ
まつなみ えりこ さん (34)
松並 江里子 さん



高 齢 者 の 新 た な 交 流 場 所 に

釧路フィッシャーマンズスワーフM O2階に10日できた1カ月限定の交流拠点「地域の縁側」。市街地に高齢者らの季節居住促進を図る市の事業の一環だ。常駐スタッフとしてお年寄りと話し込み「介護施設などの情報は、元気なうちに得ておきた

いと言われ参考になった」と語る。事業に協力する北海道建築士会釧路支部の事務局長。縁側では有料のカフェサービスのほか健康相談、映画などの催しを予定する。「縁側は世間話で人が集まるイメージ。新たな交流の場にした」と期待する。

北海道新聞 平成 21 年 12 月 11 日(金)付 朝刊地方面

ライフケアビルレッジ展開方針調査 国土交通省が今年7月、2000年度広域（ブロック）自立施策等推進調査として採択

した。全国の地方都市再生の糸口として、市民協働による安心な街なか創作的モデル地区（ライフケアビルレッジ）を

形成するために実施される調査。創路市への予算配分は3100万円。

街なかの高齢者の交流拠点

MOOに開設

「季節居住」を実験

10日から福祉、暮らし相談など

創路市は国土交通省の調査を受け、12月10日から約1カ月間、創路ウィッシュマンズウィーク。「地域の課題づくり、社会課題を克服する、住民の良し中心市街地」をテーマに、高齢者を対象とした街なか季節居住を実施する。ライフケアビルレッジ展開方針調査。事業の一環、市は同表紙を通じて街なか居住空間をつくる際の課題、アイデアなどを集約し、ライフケアビルレッジのバイロッドプラン策定中。創路市の全国地方都市再生に向けた新たなまちづくり施策が本格的に動き出す。 （三反節文）

国から 創路市から全国発信

街なか居住には居住空間の整備するほか、カフェやイベントのほかに、住み慣れた地域、スナックなど実用する。高齢者や子ども、子育てなど、対象者が気軽に立ちあがっている。「地域の課題」を共有し、実際の暮らしが、街なか暮らしの交流拠点、利用者の反応から設置する際とある。MOO、ニータース、の課題などを考える。

スという位置付けは、12月10日、ライフケアビルレッジの形成日。10月1日、MOOは、中心市街地にある建物の活用や高齢者にとって安心・安全な「MOO、ニータース」の再

期間中は、高齢者が自主的に、備前の提案などが見込まれた。市内の上乗せも福祉に、創路市では、高齢者に関する相談、安心な住まい、や交通面でも、高齢者が困ると暮らしに関する情報提供や、特に関心のある人たちに、相談など多様なイベントを、想定し、利便性の高い中心市

街なか季節居住が、街なか暮らしに関する相談や課題を解決する。MOO、ニータース、の課題などを考える。MOO、ニータース、の課題などを考える。MOO、ニータース、の課題などを考える。

ワットソンを希望する。将来的には、MOO、ニータース、の課題などを考える。MOO、ニータース、の課題などを考える。MOO、ニータース、の課題などを考える。

創路新聞 平成 21 年 12 月 6 日(日)付 朝刊 1 面